

# 郷土づくりへの参加

ボランティアサークル「れえる」

「くらやみに、あかりを」と、毎週一回集まって、目の見えない人たちのために、ひたむきに点訳奉仕を続けているサークルが山鹿市にある。その名は「れえる」。

メンバーは、山鹿市立病院に勤務する大森令子さん（二九）をリーダーに、女十七人、男三人。

この点訳サークルが誕生したのは五十年四月。大森さんは高校二年の時、三ヶ月の闘病生活を経験し、「みんなに親切にしてもらったお礼に役立てば」と、大学時代は点訳クラブで活躍した。そしてこの経験を生かそうと、友達の姫井り子さん、矢野悦子さんのトリオで点訳を始めた。サークルの名前も、この三人の名前の頭文字をとった。また「れえる」の一本は点訳者、もう一本は視力障害者でいつまでも寄り添っていきたいという意味もこめられているという。

例会は毎週木曜日、大森さん宅に集まる。これまで点訳したのは八タイトル、二十五冊、三千五百ページにのぼる。目標は一万ページです。またもっともっと会員を増やして視力障害者の方を喜ばせたい」と張り切っている。



▲木曜の夜大森さん宅での点訳作業、点字タイプライターの音がカタカタ鳴る（右から2人目が大森さん）